

幼稚園教育実習の事前指導のあり方について

— 幼稚園教育実習後アンケート調査の分析から —

江 端 佳 代

(2017年3月10日受理)

1 はじめに

本学における幼稚園教育実習の体系は、教育実習Ⅰとして、1年次9月に本学の附属幼稚園にて1週間、2年次6月に学外の幼稚園、幼保連携型認定こども園において3週間の幼稚園（指導）実習を行っている。また、保育実習Ⅰとして、1年次2月に10日間の保育所（参加・観察）実習、2年次8月に10日間の施設実習、保育実習ⅡまたはⅢとして、9月に10日間の保育所（指導）実習、もしくは施設（指導）実習を実施し、学生は計5回の実習を経験することになっている。そして、それぞれの実習前後には、実習担当者が実習指導を行っている。筆者は平成28年度入学生から、教育実習Ⅰと教育実習Ⅱにあたる実習指導を担当している。

筆者は幼稚園教諭として現場での職歴を有しており、今までは実習生を受け入れる立場であった。2年次6月の幼稚園（指導）実習において本学の学生を受け入れ、保育者になるという夢を実現すべく、有意義な実習となるように支援してきた。実習を受け入れていた時は、心身共に元気に実習期間を過ごし、幼児たちへのかかわりや支援を通して、これから保育者として自分がどのような力をつけるべきか、実習生自身が問いかけながら実習を進めていくことができるように心がけていた。しかし、実習生によっては実習を受ける意欲や態度などに問題があり、どのように指導すべきか悩んだこともある。

このような現場での体験から、教育実習を充実した学びの機会にするための効果的な実習指導のあり方について考えていきたい。

そこで附属幼稚園実習後のアンケートから、学生が困難と感じたことを明らかにすることで、実習前の指導において重要視しなくてはならないことは何かを探っていきたい。また、実習教育は実践現場との共同作業であることから、園では学外実習に向けて何を身に付けてほしいと考えているのか、筆者の今までの体験や現場の先生方の聞き取りから、今後のより充実した実習指導へとつなげていきたいと考える。

2 研究の方法

○アンケートの実施

附属幼稚園実習後のアンケートについて分析する。（本学作成のアンケート）

調査対象…本学幼児教育学科1回生

（平成28年度生111名）

調査期間…附属幼稚園実習後9月26日～30日においてクラス毎にアンケートを行う。

調査方法…教育実習Ⅱの授業において実施した。

記名式としているが、その内容が成績に影響することはないことを付け加えた。

回収率…100%

3 実習後のアンケートの結果と考察

(1) アンケートの結果（表1）

平成28年度生における附属幼稚園実習後のアンケート結果は次の通りである。なお各質問項目に、非常にそう思う（5点）～全くそう思わない（1点）を与えた平均値と標準偏差を求めた結果も示す。

表1 教育実習（仁愛附属幼稚園）に関する調査結果（平成28年度生）

	1 全く そう 思わない	2 あまり そう 思わない	3 どちら とも いえない	4 やや そう 思う	5 非常に そう 思う	平均 値	標準 偏差
【実習に対する意欲】							
問1. 目的をもって取り組んだ。	0.0%	0.9%	5.4%	53.2%	40.5%	4.33	0.62
問2. 責任をもって取り組んだ。	0.0%	0.0%	2.7%	33.3%	64.0%	4.61	0.54
問3. 自発的に行動した。	0.0%	3.6%	18.9%	61.3%	16.2%	3.90	0.70
問4. 自分なりに工夫しながら行動した。	0.0%	5.4%	23.4%	55.0%	16.2%	3.82	0.76
問5. 指導者に質問するなど、積極的に指導を求めた。	0.0%	5.4%	23.4%	46.8%	24.3%	3.90	0.83
【実習に対する態度】							
問6. 服装は適当であった。	0.0%	0.0%	1.8%	18.0%	80.2%	4.78	0.46
問7. 挨拶など礼儀正しくできた。	0.0%	0.0%	6.3%	38.7%	55.0%	4.49	0.62
問8. 時間や決まりを守れた。	0.0%	1.8%	2.7%	18.9%	76.6%	4.70	0.61
問9. 言葉遣いは正しかった。	0.0%	2.7%	11.7%	49.5%	36.0%	4.19	0.74
問10. 明るい表情や態度であった。	0.0%	2.7%	0.9%	40.5%	55.9%	4.50	0.66
【幼稚園教諭の仕事に対する理解】							
問11. 幼稚園教諭の仕事は意義がある。	0.0%	0.0%	1.8%	21.6%	76.6%	4.75	0.48
問12. 子どもとの接し方や働きかけの仕方を反省し、改善していく姿勢をとった。	0.0%	0.9%	6.3%	45.9%	46.8%	4.39	0.65
問13. 毎日の保育に積極的に参加した。	0.0%	0.0%	4.5%	41.4%	54.1%	4.50	0.59
問14. 自ら進んで環境整備をしたり、教諭の手伝いをした。	0.9%	6.3%	15.3%	41.4%	36.0%	4.05	0.92
問15. 幼稚園教諭の専門知識、技術の深さを理解できた。	0.0%	0.0%	6.3%	46.8%	46.8%	4.41	0.60
【子どもについての理解】							
問16. 子どもがますます好きになった。	0.0%	0.0%	4.5%	17.1%	78.4%	4.74	0.54
問17. 子どもと遊ぶことが楽しくなった。	0.0%	0.9%	3.6%	13.5%	82.0%	4.77	0.56
問18. 子どもの世話をすることがうれしく思えた。	0.0%	0.9%	7.2%	19.8%	72.1%	4.63	0.66
問19. 子どもの様々な姿からその気持ちを理解した。	0.0%	1.8%	18.0%	53.2%	27.0%	4.05	0.72
問20. どの子からもよく好かれ、よき遊び仲間となった。	0.0%	0.9%	22.5%	53.2%	23.4%	3.99	0.70
【指導計画と実践】							
問21. 子どもの発達段階など実態に即した計画が立てられた。	0.0%	7.2%	38.7%	47.7%	6.3%	3.53	0.72
問22. ねらいに合った活動を設定できた。	0.0%	4.5%	24.3%	51.4%	19.8%	3.86	0.78
問23. ねらいの実現に向けて実践を展開することができた。	0.0%	7.2%	33.3%	50.5%	9.0%	3.61	0.76
問24. 個人差に応じた指導ができた。	1.8%	10.8%	31.5%	48.6%	7.2%	3.49	0.85
問25. 指導計画の重要性を理解することができた。	0.0%	0.0%	5.4%	28.8%	65.8%	4.60	0.59
【実習後】							
問26. これから幼稚園についてもっと勉強しようと思った。	0.0%	0.0%	12.6%	42.3%	45.0%	4.32	0.69
問27. 幼稚園教諭にぜひなりたいと思った。	0.9%	13.5%	32.4%	35.1%	18.0%	3.56	0.97
問28. これからもっと短大での学習に真剣に取り組もうと思った。	0.0%	0.0%	3.6%	26.1%	69.4%	4.66	0.55
【その他】							
問29. 自己の研究テーマに真剣に取り組んだ。	0.0%	1.8%	15.3%	52.3%	30.6%	4.12	0.73
問30. 短大で学んだことを実習中充分に発揮するようにつとめた。	0.9%	3.6%	21.6%	54.1%	19.8%	3.88	0.80
問31. 実習園の「幼稚園」としての役割、重要性が理解できた。	0.0%	0.9%	15.3%	49.5%	34.2%	4.17	0.71
問32. 実習ノートを書くことに真剣に取り組んだ。	0.0%	0.0%	2.7%	32.4%	64.9%	4.62	0.54
問33. 実習は楽しかった。	0.0%	0.9%	9.9%	30.6%	58.6%	4.47	0.71

(網掛けの項目は平均値が4.00以下)

(2) 各項目についての考察

【実習に対する意欲】

問3, 4, 5においては、他の質問項目から比べると平均値も下がり、標準偏差の幅もある。積極的に取り組もうとする姿勢は見られるものの、どのようにかかわっていいのかわからないのであろう。また、問5「指導者に質問するなど、積極的に指導を求めた。」(M=3.90 SD=0.83)では、附属幼稚園では毎日反省会の時間をつくっていただいているが、その時間が設けてあるにもかかわらず、質問など積極的にできなかったと振り返っている学生が多い。保育技術とも関連するが、何を質問していいのかわからないという学生もいた。

【実習に対する態度】

すべての問に対して、学生の自己評価は高い。実習前の指導で本学作成の『実習要項』にて、実習の基本的な心構え、「学ぶという姿勢と意欲をもって臨むこと」や「実習は授業の一環であるが、幼稚園教諭として一働きという姿勢で臨むということ」¹⁾について理解し、実習に臨んだ結果だと考える。実習という一時的にせよ保育現場という社会に出ることを踏まえ、「挨拶」や「服装」、「言葉遣い」など学生なりに気を付けて実習に臨んだ結果である。まだ高校生活から大学生活に精神的に移行しきれていない学生にとっては、9月の教育実習では保育業界における身だしなみや言葉遣いなど、不自由さや窮屈さを感じることであろう。しかし、『幼稚園教育要領解説』、一般的な配慮事項「6 教師の役割」に「幼児は、教師の日々の言葉や行動する姿をモデルとして多くのことを学んでいく。善悪の判断、いたわりや思いやりなど道徳性を培う上でも、教師は自らの言動が幼児の言動に大きく影響することを認識しておくことが大切である。」²⁾と書かれているように、教師の大切な資質として最初の実習に臨む事前指導で、押さえておかななくてはいけないことである。

今回、実習前に「ABCD+Eの法則」(当たり前前のをばかにしないでちゃんとする人できる人、プラス笑顔で)を合い言葉に実習に向かわせた。このことは、次の実習にもつながっていくものであり、保育の現場にも引き継がれていくことである。自分自身を振り返りながら、身に付けて

いってほしいと願う。

【幼稚園教諭の仕事に対する理解】

この領域においても学生の自己評価は高い。幼稚園教諭の仕事の大変さも感じたようだが、幼稚園教諭の幼児へのかかわりを見ながら、幼児に対する接し方を学んでいたようだ。また、問14「自ら進んで環境整備をしたり、教諭の手伝いをした。」(M=4.05 SD=0.92)では標準偏差の幅があり、「全くそう思わない」0.9%、「あまりそう思わない」6.3%と8名だができていないと感じている学生がいた。事前実習指導で清掃体験を行っているが、幼稚園での教育が『環境を通して行う教育』という事を意識しているからであろうか、成績上位者がこの問に対して厳しく評価している。

【子どもについての理解】

この領域も、学生の自己評価は高い。学生は実習後「子どもたちは可愛かった。」「○○先生と呼んでくれてうれしかった。」と幼児とかかわった楽しさ、喜びを報告している。しかし、問20「どの子からもよく好かれ、よき遊び仲間になった。」(M=3.99 SD=0.70)では「そう思わない」学生も0.9%いた。今まであまり幼児とかかわっていない学生にとっては、どのようにかかわっていいのかわからなかったのであろう。今後、実習や保育ボランティアの経験を重ねることで、幼児にとってのよき遊び相手になっていくのではないか。平成27年度生においても、附属幼稚園実習後は平均値4.28であったが学外実習においては4.55と高くなっている。

【指導計画と実践】

問21, 22, 23, 24においては、平均値も下がり、他の質問項目から見ると、標準偏差も幅がある。附属幼稚園実習は、入学して前期の授業を終えたばかりで、1週間の実習をやり遂げなくてはいけない。基礎的な保育技術や子どもについての発達理解など十分に学修していない状況での実習となるため、不安も大きい。訪問指導をすると幼児とどのようにかかわればいいのかわからないという学生もいた。実習を通して自分の未熟さを感じたようだ。アンケートの中の【実習中感じたこと、思ったこと、次の実習に向けての課題】の自由記述においても、次のようなコメントが多かった。

実習を通して、未熟さを実感したコメント

「自分の未熟さを痛感した。もっと勉強しないと、子どもとかかわることができない。」

「何をすべきか分からなかった。かかわりって、発達って、ちゃんと理解したい。」

「実習を通して、短大での授業は本当に大切だと思った。知識をしっかりと身に付けて、次の実習に臨みたい。」

「ただ、遊んでいるだけだった。適切な援助、言葉掛け、分からなかった。」

「どうしていいか分からず、ボーッとしていた。ちゃんとかかわりたい。」

「先生の指示通りにしか動けなかった。」

この領域での自己評価の低さは、次の指導実習に向けての課題であることが示された。

【実習後】

問28「これからもっと短大での学修に真剣に取り組もうと思った」(M=4.66 SD=0.55)は平均値も高く、標準偏差の幅も小さい。自分なりに課題を捉え、次の実習への意気込みが感じられる。自由記述においても、次のような意見が多かった。

自分の課題を明確にしたコメント

「子どもをしっかり理解し、一人一人に応じたかかわりができるようになりたい」

「年齢毎の発達段階について理解したい。」

「ピアノをもっと練習したい。子どもの前でもちゃんと弾けるようになりたい。」

「指導案をちゃんと書けるようになりたい。」

「いろいろな遊びを知っておきたい。」

「人に頼らず、保育ができるようにしたい。」

「トラブルやけんかの対応について、理解したい。」

「子どもをしっかり理解し、一人一人に応じたかかわりができるようになりたい。」

以上のように、各自、次の実習に向けての課題を捉えている。

なお、問27の「幼稚園教諭にぜひなりたかった」(M=3.56 SD=0.97)は平均値も低く、標準偏差の幅も他の質問項目から見ると大きい。このことは、幼稚園教諭ではなく、入学当初から

保育士になりたいと強く思っている学生もいるので、このアンケートに表れている数字が、そのまま保育者になりたいと思う学生が少ないとはいえないだろう。比較する上では、入学当初の学生の意識調査も必要であったと考える。この質問内容については、認定こども園でも実習を行うことができるようになったので、質問項目を変更していく必要があるようだ。

【その他】

問30「短大で学んだことを実習中充分に発揮するようにつとめた。」(M=3.88 SD=0.80)は平均値が下がっているが、1回生前期の学修だけで実践に繋げていくのは難しいであろう。特に、絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノなど幼児の反応が学生もすぐ分かるので、うまくいかなかったと感じる学生もいたようだ。しかし、問33「実習は楽しかった。」(M=4.47 SD=0.71)では、実習は大変だったが、楽しいと感じて終えることができた学生が多かった。楽しいとあまり思わなかった学生との面談でも「実習が大変だったという印象が強く、楽しいとは思えなかったと評価したが、最終日幼児との別れがつかなく、頑張ってたよよかった。」という感想であった。

なお、平均値が低い質問項目の間について、過去2年間のアンケート結果と比較すると、問21～24の【指導計画と実践】の平均値は毎年低くなっている。(表2, 3) 学生は幼児を理解し、ねらいをもって計画的に指導することに不安を感じているようだ。

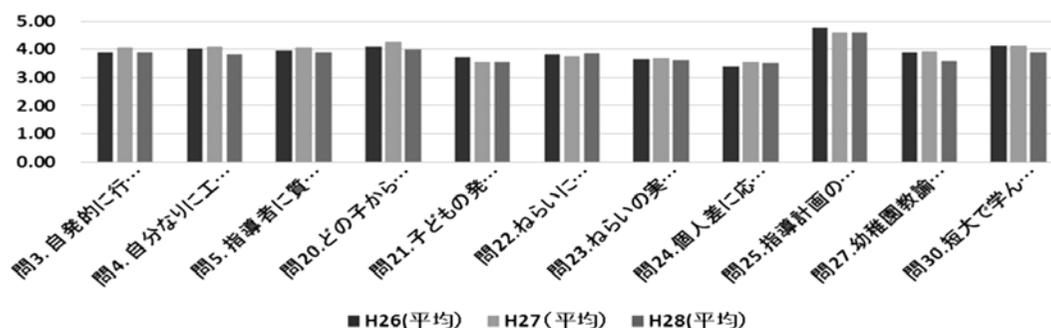
(3) 附属幼稚園実習後の取り組みについて

附属幼稚園での実習において、幼稚園教諭の仕事の間近に見、またグループでの指導ではあるが、実際に幼児の前に立ち指導したことは、学生にとって貴重な経験である。附属幼稚園実習では学外の幼稚園実習に向けて、指導案の作成、部分指導から、礼状に至るまで、実習に関する一連の経験ができるように計画されている。実習の流れや園での仕事、また幼児へのかかわりなど、これから学ぶべきことを自覚する上でも、この時期に附属幼稚園実習を経験することは大きい。また、附属幼稚園では「気付く」ことや「感じ取る」ということを大切に指導していただいているように

表2 過去の平均値が低い質問項目

	H26 (平均)	H27 (平均)	H28 (平均)	H26 (標準偏差)	H27 (標準偏差)	H28 (標準偏差)
問3. 自発的に行動した。	3.90	4.06	3.90	0.72	0.79	0.70
問4. 自分なりに工夫しながら行動した。	4.01	4.11	3.82	0.69	0.79	0.76
問5. 指導者に質問するなど、積極的に指導を求めた。	3.97	4.07	3.90	0.77	0.86	0.83
問20. どの子からもよく好かれ、よき遊び仲間となった。	4.11	4.28	3.99	0.67	0.59	0.70
問21. 子どもの発達段階など実態に即した計画が立てられた。	3.72	3.54	3.53	0.62	0.87	0.72
問22. ねらいに合った活動を設定できた。	3.82	3.73	3.86	0.74	0.86	0.78
問23. ねらいの実現に向けて実践を展開することができた。	3.65	3.68	3.61	0.73	0.81	0.76
問24. 個人差に応じた指導ができた。	3.38	3.52	3.49	0.75	0.86	0.85
問25. 指導計画の重要性を理解することができた。	4.75	4.60	4.60	0.48	0.59	0.59
問27. 幼稚園教諭にぜひなりたと思った。	3.90	3.93	3.56	0.87	0.96	0.97
問30. 短大で学んだことを実習中充分に発揮するようにつとめた。	4.12	4.13	3.88	0.71	0.75	0.80

表3 26, 27, 28年度生 アンケート比較



感じた。毎日反省会を実施し、幼児の具体的な場面を通して振り返り、幼児理解や発達について確認している。しかし、1学級に4, 5人の学生の配属になるため、他の学生に頼ったり、何となく終わってしまったりする学生もいる。そこで、附属幼稚園での評価や、筆者が訪問指導し、部分指導や教材の作成、保育の様子などを総合的にみた評価をコメントにして一人一人に渡した。また、園での評価は高いが、自己評価が低い学生に対しては、何が問題であったのか個人面談をし次への実習につながるような助言を行った。

さらにピアノや実習ノート、礼状の書き方（国語力）については、幼稚園からの実習評価を精査し、担当する教員に実態を伝え、今後の指導の参考にしていただいた。

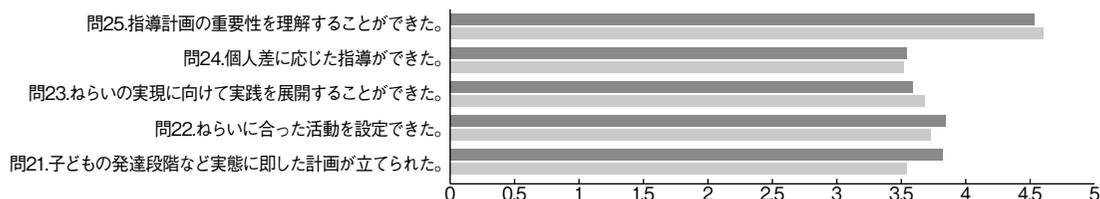
このように、平成28年度生が初めての实習にお

いて自分の課題を捉え、授業において学びを深め、次の教育実習へとつなげてほしいと期待しているが、平成27年度生の学外実習後の振り返りアンケートを見ると、次のような結果が出ている。（表4）

附属幼稚園実習を終えて、課題をもって学修に取り組み次の教育実習に臨んでも、やはり【指導計画と実践】においての数値を見ると、よくなっていない。6月の幼稚園実習は3週間という指導実習となるため、さらに学生自身が困難さを感じているのだと推察する。

平成27年度生学外幼稚園実習後の振り返りアンケート【実習前に身に付けておけばよかったと思うこと】の自由記述でも、附属幼稚園実習後と同様、ピアノや手遊び、絵本の読み聞かせなどもあるが、自分が幼児の前で実際に指導し、保育した

表4 平成27年度生附属幼稚園実習及び学外指導実習後のアンケート比較



	問21.子どもの発達段階など実態に即した計画が立てられた。	問22.ねらいに合った活動を設定できた。	問23.ねらいの実現に向けて実践を展開することができた。	問24.個人差に応じた指導ができた。	問25.指導計画の重要性を理解することができた。
■ 附属幼稚園(平均)	3.82	3.84	3.59	3.54	4.53
■ 学外幼稚園(平均)	3.54	3.73	3.68	3.52	4.60

ことで気が付いたこととして指導案に関する意見が多かった。

【指導案に関すること】

「もっと様々な指導案を考えておくべきだった。事前に考えていたが、子どもの興味に添うような指導案ではなかった。指導案の手直しに時間がかかった。」

「指導案をもとにしっかりシュミレーションしておけばよかった。」

「準備していったが、子どもが全然興味を示さなかった。」

「指導案の書き込みが足りなかったので、子どもの姿を予想して、教師の援助や環境などもっと考えるべきだった。」

「設定保育の準備をもっとしておくべきだった。」

「指導案の書き方ですごく注意された。どの先生にも発達や年齢をもっと考えてと指導された。」

「発達段階に応じた遊びについてもっと学んで、指導実習のねらいを考えてできればよかった。」

学生は責任をもって保育を行う訳だが、指導案を立てることに困難さを感じているようだ。実際、筆者も現場で指導案作成の指導をするたびに、困難さを感じていた。また、7年間本学の実習生を受け入れ指導している公立幼稚園A教諭(経験13年)、11年間指導しているB教諭(経験22年)に、実習生を指導するにあたりどのような準備をしてきて欲しいか聞き取りを行った。オリエンテーション時に渡した楽譜についてピアノを弾けるようにしておくことや絵本、手遊びの準備は

もちろんだが、指導案の作成にとっても時間がかかるので、実習前に略案でもいいので考えてきて欲しいことを話している。筆者も現場では考えてきた指導案が実際の幼児の興味関心に合っているのか、何を意図してこの活動を考えたかなど話し合い、指導案を練っていくことを大切にしてきた。幼児の姿をどのように捉えるか(幼児理解)、環境についてどのように考えるか、どのような教材を使うか(環境を通して行う教育の理解)、ねらいや内容が達成されるような教師のかかわりはどうあるべきか(言葉かけや援助についての理解)など、指導案を練ることで保育力を高めることができる。たとうまくいかなかったと感じても、振り返りの視点をしっかり持つことができ、改善点が明らかになり、今後に活かすことができると考える。

3 まとめ

以上の考察を踏まえて、学生が困難と感じていることについては、学外の実習に向けて支援していかなくてはいけない。特に指導案作成においては、ただ活動を考えるだけではなく、発達、ねらいや内容、教師の援助や環境について理解していないと、実際の幼児の姿から指導案は作成できない。戸田(2014)は教育実習に係わる不安の低減に関して「指導能力」については「指導案作成→模擬保育及び模擬授業の実施→評価・反省→改善」のサイクルを明確にした演習形式の回数を増

やしていくことや、意見を表明したりする発表形式の授業の充実」³⁾を挙げている。本学でも教育実習事前指導などにおいて、指導案を作成する場は設けていたが、平成28年度生から保育実習担当者の授業、「保育内容総論」の中で一人一人指導案を作成し、全員導入部分だけではあるが模擬保育を実施し改善すべき事など話し合う授業を重点的に行っている。今後の学外教育実習にて活かされることを期待している。

また、今回は公立幼稚園教諭からの聞き取りしかできなかったが、今後は私立幼稚園、認定こども園の実習指導者へも聞き取りやアンケートを行い、実習指導を行う上で身に付けてきてほしいことを整理し、園と養成校と連携した実習のあり方について追究していきたいと考える。

引用文献

- 1) 仁愛女子短期大学編『実習要項』（平成28年度入学生用）2016
- 2) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008
- 3) 戸田浩暢『学生の教育実習に対する不安感の考察』広島女学院大学人間生活部紀要 2014

参考文献

- 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2015
文部科学省『幼稚園教員の資質向上について』2002
開仁志、石動瑞代、松川恵子他編著『これで安心！保育指導案の書き方』北大路書房 2011
東京家政大学編集 代表 尾崎司『教育・保育実習のデザイン 実感を伴う実習の学び』萌文書林 2010
池田隆英、楠本恭之、中原朋生他編著『保育所・幼稚園実集 保育者になるための5ステップ』ミネルヴァ書房 2013
民秋言、安藤和彦、米谷光弘他編著『幼稚園実習』北大路書房 2009
阿部和子、増田まゆみ、小櫃智子他編著『最新保育講座 保育実習』ミネルヴァ書房 2014
小櫃智子、守巧、佐藤恵他編著『幼稚園・保育実習パーフェクトガイド』わかば社 2015
星野美穂子『幼児教育実習における自己評価－振り返りシート分析－』聖徳大学幼児教育専門学校研究紀要第7号 2015
佐藤慶子、阿部敬信『幼児教育実習で学生が感じる困難に関する研究－幼稚園教育実習事後及び事前の自己評価アンケートの分析から－』別府大学短期大学部紀要第35号2016
間井谷容代『学生の保育計画力の育成に関する一考察－教育課程総論と幼稚園教育実習との関連を通して－』奈良保育学院紀要 2014
杉原徹『本学学生保育学科における実習指導の課題－学生のコメントを手がかりとして－』高知学園短期大学紀要 第40号
國光みどり『幼稚園教育実習における現状と課題－保育者としての動機付けと資質向上の視点から－』近畿大学豊岡短期大学論集第6号 2009